

# ハーブソン Hokkaido 2024

## 結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

北海道爬虫両棲類研究会が主催する「ハーブソン Hokkaido 2024」は、4月15日から8月21日までの期間に実施されました。本プロジェクトは2012年に開始され、2014年は休止となったものの、今年で12回目を迎えることができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

参加者の皆様から、多くの貴重なデータをご提供いただき、誠にありがとうございました。改めて、ご参加くださった皆様に御礼申し上げます。

本速報では、簡易的な結果報告および競技部分の受賞者を発表しております。なお、詳細な報告および結果については、2021年から2025年までのデータを蓄積し、取りまとめたうえで、2025年度内に報告書を作成する予定です。

北海道爬虫両棲類研究会  
会長 徳田龍弘

## 調査の結果について(12/1までの集計分として)

(さっぽろ生き物さがし【賞授には関わりません】のデータは、まだハーブソンへの反映がまだ出来ていないので未集計です)

### 参加チーム数: 22 チーム (昨年比+5)

ばいかだ / 自然ウオッチングセンター / のっばら研究所 / 滝野の森 / アマアマアマアママガエル  
モモンガくらぶ / とかち蛙探偵団 / あげは / ぽんじろう / Kawazu Lab / HHS 情報収集  
Kawazu Lab / 帰省弾丸ハーブソン / チーム名無沼 / チームボックス / もじゃさんち  
チームりん / パプ KING / 十勝調査チーム(HHS) / オーロラ / SHIM / 隣のジャングル

### 参加者数: のべ 103 名 (昨年比+72)

### 調査されたエリア: 200 エリア (昨年比+87)

### 期間内調査で確認された種: 18 種 (昨年比+1)

ヒガシニホントカゲ / ニホンカナヘビ / ジムグリ / アオダイショウ / シマヘビ / ニホンマムシ  
ニホンイシガメ / クサガメ / ミシシippアカミミガメ / アオウミガメ / エゾサンショウウオ / ニホンアマガエル  
エゾアカガエル / アズマヒキガエル / ウシガエル / ツチガエル / トウキョウダルマガエル / トノサマガエル

### 頂いた生息データ数:

正式記録(確認データあり): 518(+217), 参考記録(確認データなし): 28(+16)  
その他の期間記録(確認データあり): 263(+216), 番外(史跡名勝)データ: 0(±0)

### 各詳細データについて

速報データは以上となります。本プロジェクトでは、最終的に800を超える報告データが集まりました。限られた周知期間にもかかわらず、多くの方々が熱心にご協力くださり、心より感謝申し上げます。

種ごとの詳細な分布や分析結果については、2025年度発行予定の「ハーブソン Hokkaido 2021-2025 結果報告書」(北海道爬虫両棲類研究報告 別冊)にて詳しく報告する予定です。引き続きご期待いただければ幸いです。

## 受賞等について

「ハーブソン Hokkaido 2024」では、調査にご協力いただいた皆様を対象に、5つの賞を設けました。各受賞チームには、賞状などを贈呈する予定です。

### ★最優秀賞

ハーブソン期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです。

受賞者： **ばいかだ** (12種) 2位：アマアマアマアマガエル (11種)

3位：自然ウォッチングセンター、SHIM (10種)

今回は、12種を確認したチームが優勝しました。2023年は14種、2022年は12種と、近年の優勝ラインは13種前後が目安となっています。この種数に到達するためには、春から夏にかけて適度な頻度でフィールドに足を運び、外来種を含め積極的に観察することがポイントです。

さらに、釧路方面でキタサンショウウオ、道北でコモチカナヘビを観察できると、15種程度まで達成が可能です。最優秀を目指したい方は、ぜひこれらを参考に計画を立ててみてください！

ちなみに、これまでのハーブソンでの最高観察数は14種です。挑戦する方々の健闘を期待しています！

### ★アオダイ賞

ハーブソン期間中にアオダイショウを最も多くのエリアで確認したチームです。今回は4チームが同数となりましたので、抽選により受賞者を決定いたしました。

受賞者： **自然ウォッチングセンター** (3エリア)

次点：ばいかだ、Kawazu Lab、十勝調査チーム (HHS) (3エリア)

アオダイショウの観察は、思ったよりも難しく感じた方もいらっしゃるかもしれません。観察のコツとしては、アオダイショウが好む環境や、餌が豊富な場所を重点的に探すことで出会う確率が高まります。ただし、アオダイショウは住宅地などにも姿を現すことがあり、探していないときに偶然見つかることもあります。

この賞では毎回特定の種を対象にピックアップし、いくつかのエリアでその種を確認できるかを競っています。2023年はエゾサンショウウオで最多が7エリア、2022年はニホンカナヘビで最多が4エリア、2021年はニホンアマガエルで最多が10エリアという結果でした。

来年はカメの予定です。ミシシippアカミミガメを対象種とし、現在の外来分布状況が把握できるといいなと思っています。

### ★ばいかだ賞 (最多エリア調査賞)

ハーブソン期間中に最も多くのエリアを、調査して下さったチームです。

受賞者： **とかち蛙探偵団** (42エリア) 2位：Kawazu Lab (28エリア)

3位：ばいかだ (24エリア)

この賞は、調査したエリア数が最も多かったチームに贈られますが、今年の最多記録はなんと前代未聞の42エリアでした。これは驚きを超えて、もはや「おかしな数字」と言わざるを得ません！ なんとという気力と体力でしょうか。

1エリアは10km×10km (2次メッシュ) の大きさです。それを42エリアも調査したというのは、想像を絶する調査量です。ちなみに、昨年も同じチームが33エリアを調査して最多記録を打ち立てていましたが、今年はその記録をはるかに上回る結果となりました。

## ★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1チームに授与します。運要素が高い賞です。

受賞者: **チームりん** (1種) 次点: ぽんじろう、パプKING (1種: 同率だったので抽選でした)

狙って獲れない賞の上に、抽選も引き当ててしまうという、最強の運の持ち主が手にする賞です。

## ★中島宏章賞(写真賞)

写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家中島宏章氏 (<http://hirofoto.com/>) に選定していただきました。



受賞者: **アマアマアマアマガエル** (写真題: Shall we dance?)



次点: SHIM (写真題: オリジン)

おわりに

この速報は簡易的な発表となります。種ごとの詳細な分布確認や考察、参加者の感想、ハープソンの今後に関する内容などは、2025年度末に発行予定の北海道爬虫両棲類研究報告・別冊「ハープソン Hokkaido2021-2025 結果報告書」にて報告する予定です。

ハープソン Hokkaido 2024 は、北海道爬虫両棲類研究会の会員向け通知および会長(徳田)のX(旧 Twitter)を通じて周知し、実施しました。今年は全体的に参加チームや人数が増加し、大変多くのデータをご提供いただきました。報告方法にSNSを活用することは参加促進に高い効果があると感じる一方、近年のSNS各社の方針により利用者が分散しており、どのプラットフォームを基軸とするべきか検討が必要です。より多くの方が参加しやすいハープソンを目指し、改善を続けてまいります。

各地域でご参加、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。本年度は速報のみの報告となりましたが、データを取りまとめた報告書の作成・印刷は、2025年度末を目標に進めております。完成を楽しみにお待ちいただければ幸いです。

ハープソンの主な目的は、データを蓄積することにあります。これらのデータを基に、生息状況の推移やその時代ごとの分布状況を記録し、将来的に役立てていければと考えています。引き続き、可能な限り多くのデータを蓄積していく予定です。



今後とも「ハーブソン Hokkaido」および北海道爬虫両棲類研究会をどうぞよろしくお願いいたします。

執筆：徳田龍弘（北海道爬虫両棲類研究会・会長）

ご応募いただいた、ほかの写真賞作品

「混沌の多様性」 チーム名：ばいかだ



「つぶとひも」 チーム名：ぽんじろう

